

神奈川県立小田原城北工業高校

神奈川県立小田原城北工業高等学校は、1961年に開校して今年創立54年を迎える。「地域産業を担う将来のテクノロジスト」に



市川校長

育てるため、①基本的な知識と技術・技能②独創力と創造力③規律ある礼儀正しい生活④工業人としての自覚を身につけ、資格や検

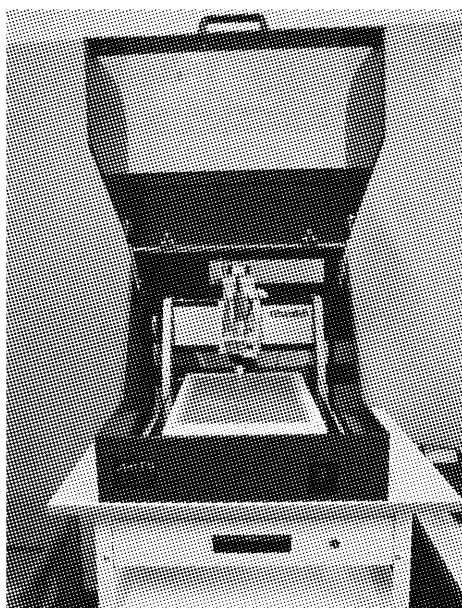
【DATA】▷校長=市川道伸氏▷所在地=神奈川県小田原市▷学科構成=機械科、建設科、電気科、デザイン科▷総定員=702人▷実習設備=ドラフター、3次元CAD、自動ろくろ、焼がま、送風機性能実験装置、電動発電機実験装置、3Dプリンター、旋盤、フライス盤、溶接機、レーザー加工機、基板加工機▷主な進路=トープラ、スタンレー電気、関電工、伊豆箱根鉄道、日立オートモティブシステムズ、東海大学、東京工芸大学、神奈川工科大学、関東学院大学、日本工学院専門学校など

育成モノづくり人材 Vol. 4

地域社会に技術力で貢献

が教育方針。モノづくりに通じた人づくりを指し、地域と連携した取り組みを進めている。「工業高校には生徒が育つ。学ぶ意義を社会で実感する。『つうしてこ成される』という。科は清掃会社と連携

し、毎年新しい清掃車をデザインペイントを施し、すでに20台以上が街を走っている。建設科は伝統技術を使って建造物の修復などを手がける。生徒は自分たちの制作物を社会で目にするのが得意。社会とのつながりを実感できる。今後は産業や就業構造の変化、科学技術の進歩といった社会環境の変化や、体験学習、実践技術の習得に加えて、進路希望の多様化に対応していく必要がある。『産業界にはインターンシップ(就業体験)のよきな短期ではなく、授業と並行した長期の現場実習(デュアルシ



電気科の基板加工機

由美子) (横浜総局長・玄蕃(金曜日)掲載)